

第 10 回分離技術国際会議 (ICSST14) プレビュー

The 10th International Conference on Separation Science and Technology

実行委員会 委員長 田 門 肇
プログラム委員会 委員長 大 嶋 寛
プログラム委員会 委員長 日 秋 俊 彦

1. はじめに

第 10 回分離技術国際会議が 2014 年 10 月 30 日 (木) から 11 月 1 日 (土) までの 3 日間、奈良県新公会堂で開催されます。本国際会議は、第 6 回(2002 年)までは「日韓合同分離技術シンポジウム」として 1987 年より 3 年おきに開催されてきました。その後、韓国側からの申し入れにより、「国際会議」という位置付けで第 7 回(2005 年)は「日韓合同分離技術国際会議」という名称に変更されました。さらに第 8 回(2008 年)では両国の合意の上で「日韓」も除いて、「分離技術国際会議」"International Conference on Separation Science and Technology (略記 ICSST)"となっています。

本国際会議は第 1 回(1987 年)から第 3 回(1993 年)までは韓国で開催され、第 4 回(1996 年)からは日本と韓国が交互に開催地となってきました。前回の第 9 回は 2011 年 11 月 3 日(木)から 5 日(土)まで韓国の済州島の済州グランドホテルで開催されました。4 件の基調講演に加えて、相平衡/輸送物性、蒸留/吸収、晶析、吸着、膜分離/粒子流体系分離、抽出/超臨界流体技術、バイオ分離、エネルギーと環境のための新しい分離プロセスと材料の 8 セッションで約 400 件の発表があり、熱のこもった活発な討論がなされました。

日本では、第 4 回(1996 年)と第 6 回(2002 年)の分離技術国際会議が東京(早稲田大学)で、第 8 回(2008 年)がリゾート地「軽井沢」にある日本大学の軽井沢研修所で開催されました。今回は、初めて関西での開催ということで、京都、大阪、神戸、奈良を候補地として、2011 年に済州島で開催された第 9 回の分離技術国際会議で韓国側の意向も聞き、これまで国際会議があまり開催されてこなかった奈良で開催することにしました。分離技術会関西地区の幹事を中心に検討し、第 10 回に相応しい充実した国際会議を開催したいと思っております。本国際会議では、基本的には前回のセッション分類を踏襲します。以下に本会議の概要を紹介します。

2. 学会会場と周辺

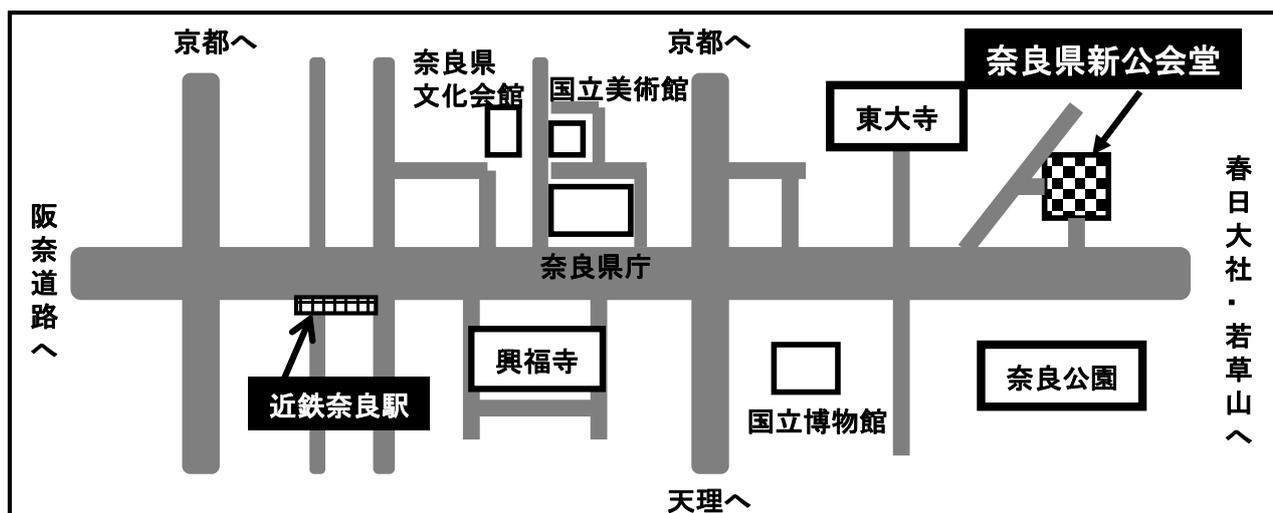
本会議の会場となる奈良県新公会堂は、奈良県置県 100 年を記念して、1989 年に開館いたしました。天平時代の建築を彷彿させる和風寄せ棟づくりと日本瓦葺きの美しい建物で、奈良市の閑静な文化・観光エリアにあります。周辺には日本で 9 件目の世界遺産(文化遺産)として登録された、「古都奈良の文化財」をはじめ、徒歩圏には見どころがいっぱいあります。具体的には、東大寺(徒歩 5 分)、奈良国立博物館(徒歩 5 分)、春日大社(徒歩 10 分)、興福寺(徒歩 20 分)や鹿で有名な奈良公園(徒歩 5 分)などの有名な観光地が点在するエリアで会議を開催します。また、会議開催期間中に奈良国立博物館では正倉院展が開催されますので、是非学会の前後に見学いただければと思います。



写真 1 奈良県新公会堂外観写真

【学会会場】

奈良県新公会堂
〒630-8212 奈良市春日野町 101
TEL 0742-27-2630 FAX 0742-27-2634
<http://www.shinkokaido.jp/>



【アクセス】

- ・近鉄（奈良線・京都線）
「近鉄奈良駅」下車，東へ徒歩 20 分あるいは「近鉄奈良駅」から奈良交通バス（市内循環）を利用して「大仏殿春日大社前」で下車，大仏殿交差点を東へ徒歩 3 分
- ・JR（関西本線・奈良線）
「JR 奈良駅」から奈良交通バス（市内循環）を利用して「大仏殿春日大社前」で下車，大仏殿交差点を東へ徒歩 3 分
- ・奈良交通バス
「JR 奈良駅」あるいは「近鉄奈良駅」から市内循環を利用して「大仏殿春日大社前」で下車，大仏殿交差点を東へ徒歩 3 分
<http://jikoku.narakotsu.co.jp/form/asp/>
<http://www.nara-access-navi.com/season-bus/>

3. 第 10 回分離技術国際会議概要

第 10 回分離技術国際会議の日程を表 1 に示します。会議会場として奈良県新公会堂の能楽ホール、レセプションホール、会議室などを、バンケット会場としてホテル日航奈良を使用します。

10 月 30 日（木）は 14 時から参加登録を開始し，夕方からセッションチェアマン会議を能楽ホールの楽屋で，歓迎レセプションをレセプションホールで行います。このレセプションホールは翌日からはポスター発表会場となります。

10 月 31 日（金）の午前に開会式が能楽ホールで開催されます。また，能楽ホールは基調講演の会場となります。写真 2 のように，舞台にスクリーンを設置して学会会場とする点がこれまでの学会会場と趣が異なり，参加者に喜んでいただけるものと考えています。午後には 4 会場での口頭発表とレセプションホールでのポスター発表が行わ

れます。特にレセプションホールを利用したポスター会場は広く，ゆったりと十分に議論を深めていただけると確信しています。夕方からは，バンケットがホテル日航奈良で予定されています。

11 月 1 日（土）の午前は，前日の午後と同様に口頭発表とポスター発表が行われます。また，発表件数が予定よりも多い場合は，午後も発表に使用することを考えています。

表 1 ICSST14 の会議日程
(2014 年 10 月 30 日～11 月 1 日)

October 30	
14:00-18:00	Registration
18:00-19:00	Chairmen's Meeting
19:00-20:30	Welcome Reception
October 31	
9:00-9:30	Opening Ceremony
9:30-11:45	Plenary Lecture
14:00-17:00	Oral and Poster
18:00-20:00	Banquet
November 1	
9:00-12:00	Oral and Poster
12:00-	Wrap-up

発表方法は口頭発表またはポスター発表で，使用言語は英語。募集論文の内容は以下の通りです。
◇各種分離技術および応用分野に関するオリジナルな論文あるいはデータ
◇新技術や新プロセスの開発に関する未完あるいは萌芽的な研究・アイデア
◇企業における環境調和型プロセスの構築，省エネルギー，省資源化，操作の効率化などを目的とした製造技術の改良や開発

◇その他、既存技術のビジネスに関するものや、既報の論文をまとめなおした研究報告など
なお、各セッションでの詳細な予定や実施方法はオーガナイザーに一任されています。日韓のセッションオーガナイザーおよびチェアマン間で打ち合わせが行われますので、お問い合わせください。

韓国側と打ち合わせた結果、本国際会議では、Proceedings は発刊せずに、Abstract を 2 ページ以内とし、図表を含めることを推奨することになりました。また、Abstract は USB メモリーで出席者に配布します。この点がこれまでの分離技術国際会議と異なりますので、ご注意ください。

4. セッション

相平衡／輸送物性、蒸留／吸収、晶析、吸着、膜分離／粒子流体系分離、抽出／超臨界流体技術、バイオ分離、エネルギーと環境のための新しい分離プロセスと材料の 8 セッションで構成されます。日本側のセッションごとのオーガナイザーは以下の通りです。また、セッションチェアマン(各セッション 3 名)は、オーガナイザーの推薦に基づいてこれから決定されます。

A) Phase Equilibria/Transport Properties

猪股 宏 (東北大学)

B) Distillation/Absorption

森 秀樹(名古屋工業大学)／二井 晋(名古屋大学)

C) Crystallization

滝山博志 (東京農工大学)

D) Adsorption

迫田章義 (東京大学)

E) Membrane Separation/Fluid-solid Separation

松山秀人 (神戸大学)／中村一穂(横浜国立大学)

F) Extraction/Supercritical Fluid Technology

後藤元信 (名古屋大学)

G) Bioseparation

後藤雅宏 (九州大学)

H) New Separation Process & Materials for Energy & Environment

武藤明德 (大阪府立大学)

発表の応募は分離技術会の Web site で行います。図表を含んで最大 2 ページの Abstract の締め切りは 7 月末を予定しています。多くの皆様に参加して頂きますよう実行委員会一同お待ち申し上げます。



写真 2 開会式と基調講演会場 (能楽ホール)



写真 3 歓迎レセプションとポスター会場 (レセプションホール)



写真 4 口頭発表会場